

# 平成18年度朝日小学校 社会科研究

高山市の学校教育の方針と重点

## 心に残る教育を創造する ～心にとどく指導を通して～

- ・ 練り合いにより事象の意味をとらえること
- ・ 問いから問いへ追究し続けること
- ・ 社会的事象の意味を追究してみたいくなるような教材の開発
- ・ さらなる疑問がもてるような授業展開

本校の研究主題

## 調べ考え、練り合い、 社会的事象の意味をとらえる社会科学習

### 1. はじめに

本校は昨年度、「岐阜県小学校社会科研究部会飛騨地区大会」の会場校となり、過去3年間の研究の実践を発表しました。

#### 3年間の成果と課題

##### 成果

研究内容1に関わって <指導計画、単元構成の工夫>

- ・ 社会的事象に関して興味・関心が持続し、ねばり強く事象のもつ意味を追究していくことができた。
- ・ 地域に関心を持ち、地域のよさを再発見できた。

研究内容2に関わって <学習活動の工夫>

- ・ 学び方が身に付き、調べ考える学習ができるようになってきた。
- ・ 仲間と交流していく中で、社会的事象の意味をとらえることができた。

研究内容3に関わって <指導・援助、評価の工夫>

- ・ 一人ひとりの子どもが自分なりの力を発揮することができた。
- ・ 社会的なものの見方や考え方を高めることのできた自分に成就感をもつことができた。

##### 課題

- ・ 自らの考えにこだわりを持ち、さらにねばり強く追究しようとする学習姿勢の育成
- ・ 「練り合い」の理想の姿の追究
- ・ 練り合いで考えを深める指導・援助のあり方
- ・ 一人ひとりを正しくとらえる評価のあり方

今年度は過去3年間の成果と課題をふまえて、さらに高山市の学校教育の方針と重点「心に残る教育を創造する～心にとどく指導を通して～」を本校では練り合いで考えを深めることととらえ平成17年度までに確立したことを土台に、研究を深めて参りました。

子どもたちが考えを出し合うだけでは練り合いが深まったとは言えません。出し合われた考えが絡まり合い深まっていき社会的事象の意味をとらえることができたとき、練り合いが深まったととらえられます。

昨年度までの研究の成果で本校では、教師による深めるための発問により、子どもが立ち止まり練り合いで考えを深めていくことができるようになりました。今年度は「子ども自らが練り合いで考えを深める姿の具現」についての研究を深めて参りました。より理想的な練り合いの創造を求めて、より深い練り合いをさせるための指導援助のあり方や子ども自らが練り合いをしようという探求心の育成をめざして次のような仮説を立てて研究を進めて参りました。

## 2. 研究仮説

### <理想とする児童の姿>

聞き取り調査、資料などから社会的事象の様子をとらえ、仲間と練り合うことで、自分(達)のもっている考えを広げ(多面的)さらに児童自らが疑問に思ったことや質問を出し、自分(達)のもっている考えを深める(多角的)ことができ社会的事象の意味をとらえられる子。

### <理想とする練り合いの姿>

本校では練り合いを以下のような場面をとらえる。

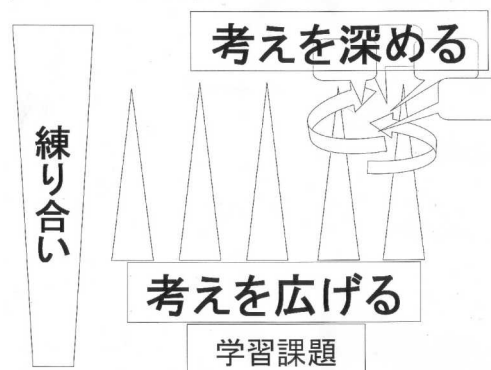
#### 考えを広げることにつながる練り合い<多面的>

学習課題が生み出され、資料や既習事項から様々な考えが出される。集団追究「練り合う」ことにより、一人ひとりの子どもの考えが広がる場面。

#### 考えを深めることにつながる練り合い<多角的>

考えを広げるための練り合いにより生み出された様々な社会的事象について、自分だったらそのことをどのように考えるのか、社会的な判断をする。

集団追究「練り合う」ことにより、一人ひとりの子どもの考えが深まり、社会的事象の意味をとらえる場面。



### <朝日小学校の児童の実態>

聞き取り調査、資料などから社会的事象の様子をとらえ、仲間と練り合い考えを広げ(多面的)教師による深めるための発問をきっかけに、自分はこのように考えるという立場を明確にして、さらに練り合うことで考えが深まり(多角的)社会的事象の意味をとらえることができる。

### <仮説>

聞き取り調査・資料などから社会的事象をとらえ、仲間と練り合い考えを広げた後、立ち止まって今まで出されてきた考えを見つめ直し、児童自身が疑問を生み出すことによって、子ども自らが練り合いで考えを深め、社会的事象の意味をより深くとらえられるのではないかと。

## 3. 研究内容

### 子ども自らが練り合いで考えを深める学習

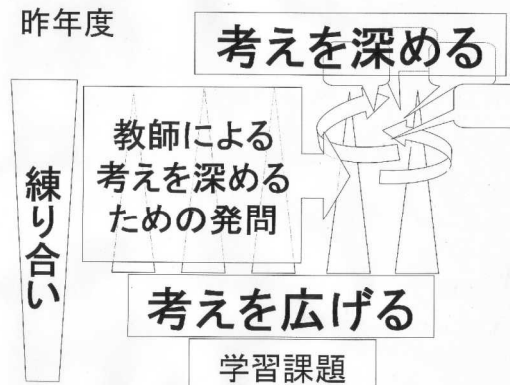
#### <昨年度の場合>

課題について資料や既習事項から、それぞれが考えたことを「練り合い」いくつかの事象が出される。

教師による、発問がきっかけとなって、いくつか出された事象のどこか1点に絞ったところを見つめる。

1点に絞って見つめたところで、社会的判断をせまり、自分だったらどう考えるのかということ「練り合い」、社会的事象の意味追究をさせていく

#### 昨年度

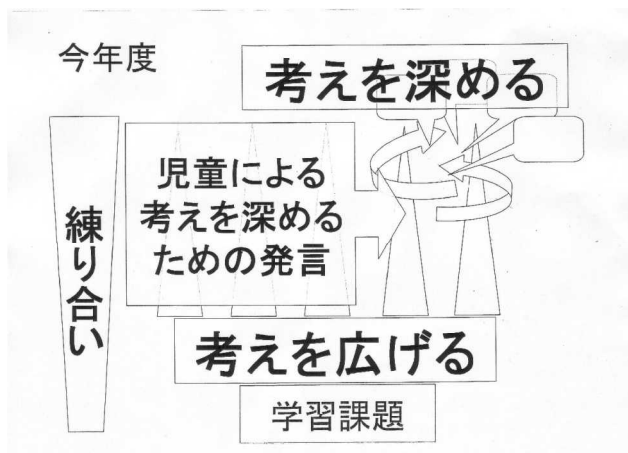


<今年度の場合>

課題について資料や既習事項から、それぞれが考えたことを「練り合い」いくつかの事象が出される。

児童による、発言がきっかけとなって、いくつか出された事象のどこか1点に絞ったところを見つめる。

1点に絞って見つめたところで、社会的判断をせまり、自分だったらどう考えるのかということ「練り合い」、社会的事象の意味追究をさせていく。



## 4. 児童による発言をきっかけに考えを深める手だて

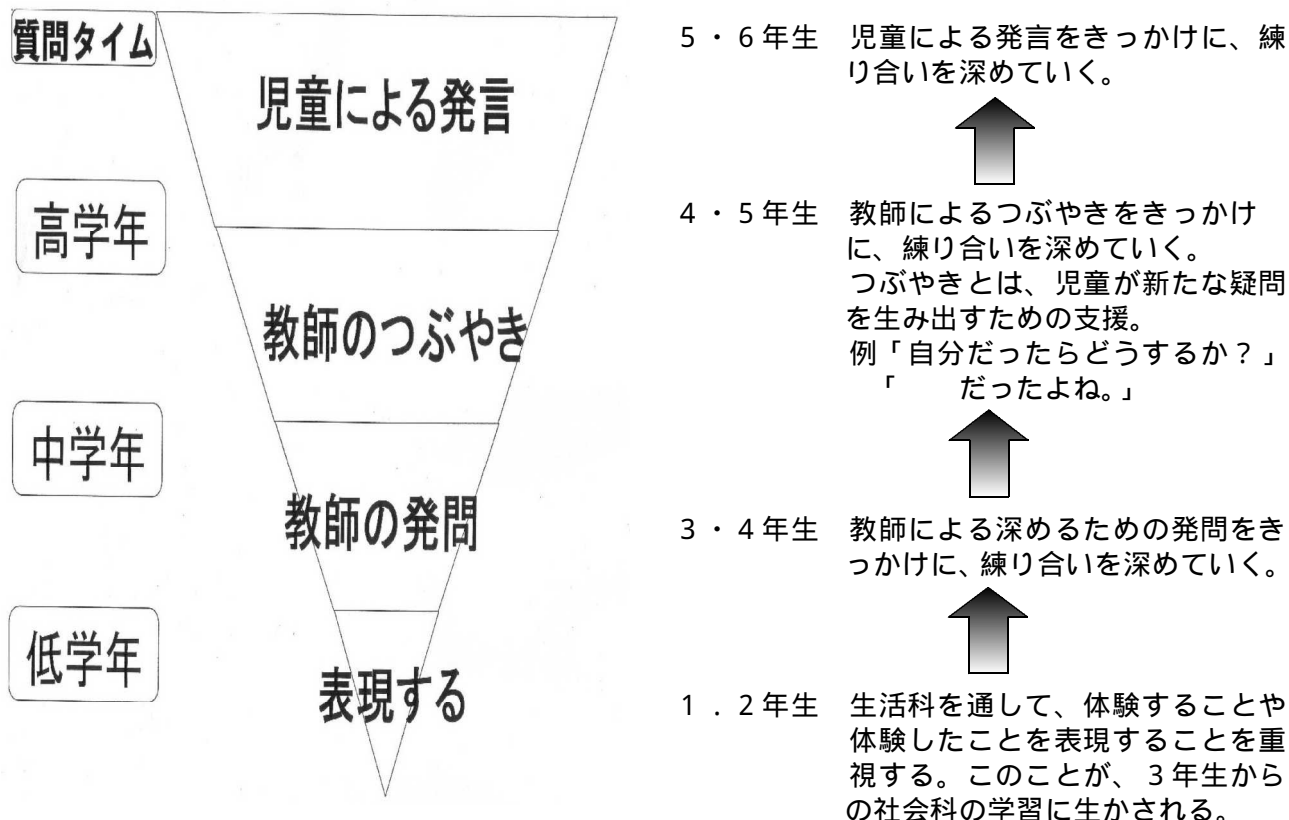
### 質問タイム

考えを広げる意見(多面的)が出たところで、質問タイムを設ける。

- 例 教師 「なるほど、 と と ということがわかってきたね。でも、さらにわからないことや疑問に思うことはないですか？」
- 児童 「ちょっと待った。なんだかおかしい。」
- 「でも、こうじゃないの？」
- 「そこまで・・・なのは、なぜなのかわかりません。」
- 「えっ、本当にそうなのかなあ？」

<質問タイムの段階>

「子ども自らが、練り合いで考えを深める姿」を6年生での理想の姿として、本校では1年生から段階をおって指導をすることにした。



# 疑問をもつ雰囲気づくり

ア 疑問をもつことを意識させる。(自己評価カード)

NO. **学習姿勢をふいかえろう 上級** 年 なまえ ( )

内容	日にち	/	/	/	/	/
1. チャイムの前に学習の準備ができましたか。						
2. 正しい姿勢と大きな声初めと終わりのあいさつができましたか。						
3. 教科書、ノート、筆箱をおく場所はよかったですか。						
4. ノートに日付や題名、課題をきちんと書けましたか。						
5. まっすぐ手をあげられましたか。						
6. 名前を呼ばれたら、大きな声で返事ができましたか。						
7. 自分の考えを進んで発表できましたか。						
8. みんなの方をむいて話ができましたか。						
9. 大きな声で最後まできちんと話せましたか。						
10. 話す人の方を向いて聞けましたか。						
11. ハンドサインをきちんと使って学習ができましたか。						
12. 友だちの言ったことに質問ができましたか。						
13. 友だちの言ったことにつけたしができましたか。						
14. ちがった見方の意見を言うことができましたか。						

よくできた・・・A 少しできなかった・・・B あまりできなかった・・・C

初

初級：1～10まで (3・4年生用)

中級：1～12まで (4・5年生用)

上級：1～14まで (5・6年生用)

イ 言い方を教える。(学び方の掲示)

社会科学学習のすすめ方

1 前の時間のひや資料からわかること 疑問に思うことも出し合う  
OOというところがわかり、OOなのはどうして...なのかな

2 学習課題をつくる  
OOなのはどうして...なのだろうか?  
OOなのはどうし(か)?  
OOについて考えよう。

3 予想した(今までの学習などから)  
たぶんOOだと思う。  
△△からOOと思う。

4 課題のことを考える 調べ(教科書や資料をたよりに)  
どのところから  
どの資料から  
自分の考えを入れて

5 話し合う 発表し合う  
OOのこと(資料)から△△というところがわかり、だから私は...だと思います。  
OOと△△のこと(資料)から△△というところがわかり、だから私は...だと思います。  
OOさんの...という考えをきいて～と思います。

6 学習のまとめ  
今日の学習でOOなの△△△△ということわかりました。  
はじめはOOと書いていたけれど△△△△ということがわかりました。  
思ふことを質問のOK

7 ふりかえり  
今日の学習で私は...と

まとめに書くこと  
W1 自分の考え、友だちの考えを合せて大事だと思うこと  
W2 自分の考えのほかに新しくわかったこと  
W3 今日わかったことから考えたことや感想

仲間にかかわって

- ◆○○さんに反対で、～だと思っています。
- ◆○○さんがわかりません。
- ◆えっ、本当にそうかなあ。
- ◆でも、～でいいですか？
- ◆ちょっとまった。

意見

◆ぼくは(わたしは)～、～だと思います。  
◆わけは、～、～です。

学習のめあて

言葉を引きいて質問  
すすんで・声

昨年度までの社会科学学習のすすめかたの掲示に、質問タイムを位置づけて、意識させる。

質問や疑問、反対意見につながる言葉の例を示して、意識させる。

学習のめあては、学年(学級)の実態に合わせて、設定する。

### ウ 疑問を発言した児童を認める。

本校の児童は、友だちの意見に賛成や付け足しをすることはできるが、友だちの意見に対して、疑問をぶついたりましてや反対の意見を述べるということは苦手という実態があった。

そこで、疑問や反対意見が出たときには、評価し認めていくということが続けていった。

### 言葉での評価

「誰も気がつかないことに、よく気付いたね。」

「　　いう立場ではなく、　　というように、立場を変えた意見だね。」

「　　さんの意見のおかげで、みんなが深く考えることできたね。」

「質問は、じっくりと考えてみようという気持ちの表れだよ。」

学級の足跡掲示への評価



## 5. おわりに

3年間の研究を土台に、今年度は「子ども自らが練り合いで考えを深める姿」を求めて研究を進めて参りました。現在それぞれの学年の段階で練り合い考えを深めることができるようになってきました。まだまだ毎時間確実にできるとはいえませんが、残り5ヶ月で各学年の段階を確実なものに仕上げたいと考えています。

今年度の研究を通して、教師の発問をきっかけに練り合って深めていくよりも、児童による発言をきっかけに、練り合って考え深めていく方が、より社会的事象の意味が心に深くとどいているような気がします。

考えを深めるための手だては確立しました。今後はさらに子どもたちの実態を分析しながら研究を進めて、他教科への広がりも意識した取り組みを続けていきたいと思います。

